

Always 「K2P2エッセイ」～クミジョとクミダンのるつぼ～

【第5回】 『K2P2白書2025』メイキング

本田 一成 ●武庫川女子大学教授 K2P2共同代表

筆者が代表をつとめるK2P2（クミジョ・クミダン パートナーシップ プロジェクト）は、『白書』と『提言』を毎年度発行している。とはいっても、2024年度の『K2P2白書2024』（タイトルは、変わりゆく労働組合の女性と男性—未来を創るヒントはどこに？）と『K2P2提言2024』（タイトルは、クミジョとクミダンのパートナーシップ形成の実現に向けた提言書）が初めての試みで、2026年3月に2度目の発行となる。

『K2P2白書2024』は「クミジョ限定アンケート調査」の結果分析に基づく「クミジョ特集」を中心に据えたのに対して、『K2P2白書2025』は、「クミダン限定アンケート調査」の分析による「クミダン特集」や「クミダン座談会」を収録している。

発行時期が近いとはいえネタバレだが、『K2P2白書2025』のキーワードは「正義」である。クミダン調査によって、日本社会全体が男女平等になっている、と考えているクミダンの割合がわかった。さてそれは何%なのか？

結果は白書を見て欲しいところだが、ヒントを言うなら、内閣府「男女共同参画に関する世論調査」結果と同じ水準であった。つまり、職場や社会のジェンダー平等の実現に努力しているはずのクミダンの意識は、進歩的でも退歩的でもなく、世間並みである。

また、男性優位、男女平等、女性優位とクミダンの男女平等観が3分裂している。ジェンダーギャップ最劣悪国の日本を本気で男女平等だと認識するクミダンは、おそらく「相当の」人物であろうことは想像に難くない。しかし、女性の方が優位になっているというもっと強者のクミダンがいる。「このオジサン、変なんです」「そうです私が変なオジサンです」「変なオジサン、変なオジサン・・・」

そうなら、見えている世界が違うから、クミダンの価値観が分散し、それぞれの正義が違うので、クミジョ増強に対するスタンスも分かれてしまう。これでは、クミジョとクミダンの「ダンジョ対立」に加えて、「ダンダン対立」も火花を散らすことになり、クミジョの増強が成功するわけがない。

正義や価値観、ダンダン対立を持ち出すのはどうかな、と思いつつ、クミダンだけを集めた講演会の質疑応答で正直に感想を聞いてみた。腑に落ちる話だ、と言われ、強烈なエピソードを聞いたのが印象的だ。やっぱり、クミダンを一括りする愚を避けなければならない。クミジョたちが労組を「クミダンガチャ」の世界だというのは本当なのかもしれない。

クミダンはクミジョに対しては抜群の団結力を発揮すると言われるが、しょうもないクミダンに付き合うクミダンばかりではなく、ほころびが見えつつある。

『K2P2白書2025』をどうやってとりまめるべきか、どんな白書をつくったらよいのか？ と悩んできたが、もうすぐ発行されるので、ぜひご覧いただきたい。

（続く）